

授業科目名	ボランティアの基礎	単位数	2
担当教員名	青山 和弘	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
「学位授与の方針」との関係			
本科目は、ディプロマポリシー「D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身に付けていること」「E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探求能力を身に付けていること」を習得することを目的とする。			
授業の到達目標及びテーマ			
(1) ボランティアとはなにかーボランティアの意味を理解する			
(2) 人がボランティアをする動機について考える			
(3) 日本と世界におけるボランティアの歴史を理解する			
(4) 現代における様々なボランティアの在り方を知る			
(5) 平常時と災害時のボランティアについて知る			
(6) 専門職がボランティアをすることについて理解する			
(7) ボランティア活動の実践			
授業の概要			
皆さんは、「ボランティア」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。東日本大震災で炊き出しをしたり、がれきの処理に当たったりする人々の姿であろうか。あるいは、病院の入り口で患者さんを案内したり、町でゴミ清掃や草花の手入れをしたりしている姿であろうか。ここでは皆さんに、ボランティアについての概要を把握し、実際にボランティアをするにあたっての心構えを掴んでもらいたい。			
国連ではボランティアを「個人が利益、賃金、出世を目的とせず、近隣、そして全社会のために行う貢献活動」と定義している。また、赤十字では「利益や見返りを求めず、雇用という枠を超えて社会貢献を行うべく様々な形で責務をこなすこと。その活動は地域に有責名だけでなく活動者たちにとっても満足となる」と説明している。こういった定義や説明は、現実のボランティアを適切に表しているだろうか。本科目の教科書では、ボランティアの定義から実践、ルールやマナー、トラブルへの対応、ボランティアの次のステップ、NPO との違いなど網羅的に取り上げている。皆さんが目指すボランティア活動とは何か、一緒に考えていきたい。			
授業計画			
第1回：ボランティアとはなにか			
第2回：NPOとNGO			
第3回：ボランティア元年ー阪神淡路大震災とボランティア			
第4回：ボランティアの歴史ー宗教、教育、市民社会との関わりから			

第5回：ボランティアの役割

第6回：ボランティアの方法論

第7回：専門職によるボランティアの意味

第8回：震災ボランティア—急性期

第9回：震災ボランティアについて—亜急性期

第10回：震災ボランティアについて—慢性期

第11回：ボランティアの問題点・課題

第12回：ボランティア資源動員論

第13回：ボランティアの意味

第14回：ボランティア活動の実践にむけて—資料収集と計画書作成

第15回：ボランティア活動の実践に向けて—発表と相互討論

定期試験

スクーリングでの学修内容

第1回から第15回全ての内容を横断的に含む。

教科書

久米隼『ボランティアの基礎』（日本橋出版）2021年

参考文献

猪瀬浩平『ボランティアってなんだっけ?』（岩波ブックレット）2020年

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。